



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

7. 「オーロラブラック」に適した果房管理方法

[要約]

「オーロラブラック」は、「ピオーネ」に比べて果粒が大きくなりやすい。500～600 g の「オーロラブラック」を生産するには、花穂整形時の花穂長を 3～3.5cm 程度、摘粒時の穂軸長を 5～6 cm 程度とし、果粒肥大が良好な樹では肥大に応じて粒数を制限する。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

「オーロラブラック」は、果房管理で残す果粒数を「ピオーネ」に準じて 35～40 粒程度としているが、「ピオーネ」に比べて果粒が大きくて大房になりやすく、着色不良等の品質低下を招く恐れがある。そこで、生産目標である 500～600g の果房を生産するために、「オーロラブラック」の適正な果房管理方法について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 農業研究所（赤磐市）における、過去 5 年間の「オーロラブラック」の果粒重は、おおむね 20 g 以上で、「ピオーネ」の 16～17 g 程度に比べて明らかに大きい（表 1）。
2. 整形時に花穂長を 3 cm 及び 4 cm としたときの満開 10 日後の穂軸長は、それぞれ 5.2 cm 及び 7.1 cm、収穫時の果房重は、それぞれ 580 g 及び 686 g であり、4 cm 区では 600 g を越える果房の割合が 81% と多い（図 1）。
3. 摘粒時に穂軸長を 5～6 cm に調整すると、収穫時に生産目標となる 500～600 g の果房の割合は 67～33% となり、7 cm 区の 10% に比べて高い（表 2）。
4. 果粒重は、6 cm 区が最も大きく、次いで 5 cm 区であり、7 cm 区は最も小さい。また、糖度及び果皮色は処理区間に大差はない（表 2）。いずれの処理区においても、果粒が押し合って支梗が裂ける房はみられない。
5. 平均果粒重が 20～22 g の場合、摘粒後に 26～28 粒程度の果粒を残すと、概ね生産目標となる 500～600 g の果房重に収まる（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験では開花前（満開 7 日前）に花穂整形を行った。
2. ジベレリン処理は満開期にフルメット 10 ppm 加用ジベレリン 25 ppm を浸漬処理した試験である。
3. 花穂整形で残す花穂長が長かった場合には、必ず摘粒前に穂軸長の調整を行う。
4. 果粒が押し合って支梗が裂けるのを防ぐため、満開 3 週間後に玉直しを必ず行う。
5. 平均果粒重が 20 g に満たない園地では、栽培指針に準じて果房管理を行う。



〔具体的データ〕

表 1 「オーロラブラック」及び
「ピオーネ」の過去 5 年間の果実
品質（農業研究所、2013～2017）

品種 ^z	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (°Brix)	果皮色 (C.C.)
オーロラブラック	637	20.6	17.4	7.8
ピオーネ	610	16.9	18.3	7.6
有意性 ^y	ns	*	ns	ns

^zオーロラブラックは5年生以上2～3樹の平均値、
ピオーネは11年生(H29)1樹

^yt検定により*は5%水準で同項目の品種間に有意差あり、
nsは有意差なし

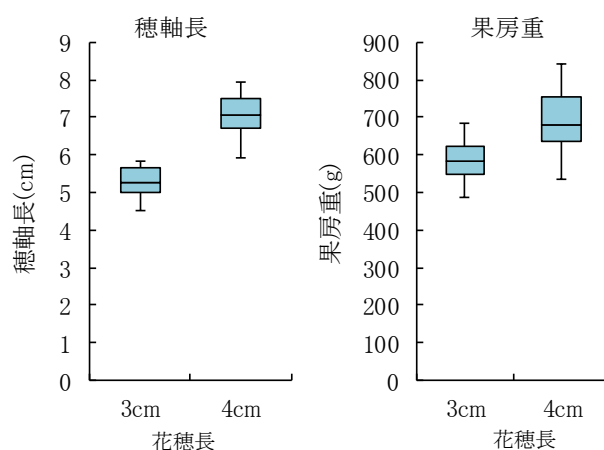


図 1 花穂整形時の花穂長が「オーロラブラック」
の満開 10 日後の穂軸長（左）及び収穫時の
果房重（右）に及ぼす影響
花穂整形は満開 7 日前に行った
箱の範囲は 25～75% タイル値、箱内部水平線は中
央値、箱上下のひげは、箱の長さの 1.5 倍以内の
最大・最小値

表 2 摘粒時に調整した穂軸長が「オーロラブラック」
の果実品質に及ぼす影響

処理区	果房重 (g)	500～600gの 果房割合(%)	果粒重 (g)	糖度 (°Brix)	果皮色 (C.C.)	支梗数 (個)
5cm	560 b	67 a	21.0 ab	16.9	7.4	8.0 b
6cm	635 a	33 ab	22.9 a	16.7	7.2	8.8 ab
7cm	642 a	10 b	20.0 b	17.2	7.3	10.0 a
有意性 ^z	*	*	*	ns	ns	*

^z500～600gの果房の割合はBonferroniの母比率の検定、その他はTukey法により

**は1%水準、*は5%水準で処理区間に有意差あり、nsは有意差なし

穂軸長の調整は満開9日後に行った

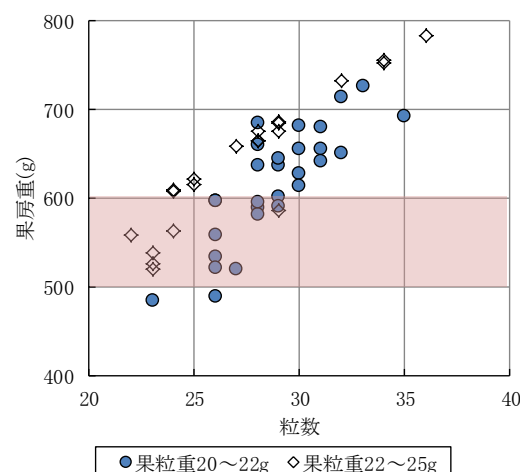


図 2 「オーロラブラック」の収穫時の
粒数と果房重との関係

〔その他〕

研究課題名：「オーロラブラック」のブランド力強化を目指したプレミアム果実生産技術
の確立

予算区分：県単

研究期間：2017～2019 年度

研究担当者：中島譲・安井淑彦・藤原 聡・久保田朗晴

関連情報等：1) [平成 27 年度主要成果、51-52](#)

2) 岡山県果樹栽培指針（2014）